

# 世界日本学による安寧空間創製の研究

## (安寧空間創製システム:WBSC の研究)

沢恒雄 遊工学研究所

**概要**：環境・社会・経済は、トリレンマの状態にある。地球上の人口は、22 世紀 100 億人になると予測されている。人口増加率と工業化率を低減させることでトリレンマを緩解することできるとし、世界日本学を提唱した。この思想でモデルベースを構築して、その運用過程でバランスの取れた状態にする方略を考察した。

欲ボケ症候群の希薄性と「足るを知る」日本の良質な社会倫理感が人類を救うヒントである。

**キーワード**：世界日本学、安寧空間創成、トリレンマ、GMPIA、二大戦略、二大対策、

Well-Being Space Creation (WBSC) system determined by the world Japanese Studies

Tsuneo Sawa

### 1. 先行研究 [1~2]

#### 1.1 人類 100 億人は不可能

糸川英夫博士は、「人類は 22 世紀に滅亡する」と主張した。22 世紀に人類は 100 億人になり、それを生かせる地球資源はなく、加えて人口増加率の視点から種の滅亡の目安が、 $dH/dt = \infty$  の現象となった時とした。また食料科学者の主張では、土地の扶養能力やたんぱく質の総量から分析しても 100 億人が限界だとしている。

#### 1.2 先行研究[1, 2]の査読について

FIT2015 の査読論文で投稿した「世界日本学の提案」と「二大モデルによるマルチ・トリレンマ緩解（艦戒）の研究」の論文で、論文を査読仕切れていない査読結果が返信された。異分野の査読者の素人判断と思われるので、上記の 2 論文の提出根拠と客観性と論理性を示すため追加論文とした。参考文献も読まれている気配もなく、複数の査読者の結果をただ積み重ねて全評価としている不合理さを正したい。

遊工学研究所 [Yre00736@nifty.ne.jp](mailto:Yre00736@nifty.ne.jp)

今後の FIT 運営上の課題とも判断できるので慎重な確認作業を期待する。

### 2. 安寧空間創製システムの主題と展開 [1~3], 図 1

**課題**；人類 100 億人用の地球資源は無く、対策は無い。

**緩解策**；解決法はなく、緩解策として先延ばし策を！

**二大対策**；人口増加率逡減と工業化率逡減を人類滅亡時期を先送りする方略として提唱した。

**目標・目的**；FIT2014 では、「モデル」と定義した用語が多く、混乱を排除するために「戦略」とした。即ち二大戦略は、生物温存戦略と言語文化温存戦略とした。実態としてモデルがシステムの構成要素となるが、あえて願望・目標という意味を含めて変した。

**方法・方略**；環境・社会・経済のトリレンマ現象が原因の源泉にある。そこで日本の良質な社会倫理観を日本・日本語・日本文化を一体としてモデルベースシステムを構築し、デジタル・ディブ・ロマーで世界に発信・啓蒙・理解・認知・政策実践指導と教育によりトリレンマを緩解させる。

### 3. 安寧空間創製システム(WBSC)の概要 図1, 図2

世界日本学による安寧空間創製システム構築法をWBSC(Well-Being Space Creation system determined by the world Japanese Studies)と呼称する。その概要は、FIT2015に発表した[1], [2]と当論文である。

安寧空間創製システムの概念構築は、地球学、開発経済学・国際日本学・国際経済学・地政学・世界システム論・文明論・認知学・社会倫理論などの複合領域と関係する。

WBSCの最終目標は、餓死者、銃火器、依存症的欲望の縮退、人格破壊薬物の廃絶・厳密な使用制限である。

#### 3.1 国連の持続可能な開発目標SDGsとWBSC対比

国連の諸政策は、総花的で裕福な国から極貧国への資金援助が主流である。これを曾野綾子氏は、アフリカ等の惨状を見て問題解決にならないと指摘した。

SDGs, ODAやJIICAなどの活動実績から目標を実現するためにSDGsとGMPAによる対比を[3]で報告した。ここでSDGsの体制面で、「安寧空間創製システム」は、強力なツールとなり得る。特に知識の伝達や獲得は有効性を発揮する。WBSCの運用管理で長期的な教育・指導による社会倫理観の醸成と定着化を目指す。

図3の上段における組織の活動方針は、それぞれの戦略や目標により活動が異なる。組織間の格差は、現実問題として埋めることは不可能である。

#### 3.2 WBSCの概要 図3, 図4

二大戦略、二大対策を実践するWBSCの評価尺度を定めて、適切なレベルによる政策や計画に反映させる。数年、数十年のレベルで巧みなバランスを保ち、負のスパイラルに落ち込まないような制御が必要である。「安寧空間の創製」の啓蒙・政策・実践の定着を目指す。

後開発国に対する資金援助は、上層部の搾取が多く、実効的に利用されることが少なく、餓死者が減らない。部族や国のリーダーの意識を変えられるような教育を長期間継続に実践していくことが必要である。良質な社会倫理観の醸成のための教育には長期間かかる。それぞれの適正な幸福度に直結する施策と実践が援助の大前提になる。

#### 3.3 WBSCの評価尺度 図4, [4][5]

各種報告書からトリプル緩和の尺度変換;国連や日本の外務省等から各種の報告書がでていますが、それらから工業化率と残存消費始原量の計算は、理論が確立していないので、規範モデルができ2回目の運用実績を得て以降、学習し精緻化する仕組み組み込む。

#### 4. WBSCの管理運用 図4, 図3報告

「個⇌人間・生物」や「種⇌国・人種・文化・言語」の連鎖の切断のない様にし、進化し得ない「種」の崩壊を極小化することも重要である。

日本の負の遺産も含め世界日本モデルの知財資産-資源としCOEの位置を確立しデジタル・ディバイション活動を世界に向けて活動する。

WBSCの総合的知財管理は、知財蓄積・管理・発信、実践等である。世界日本学モデルの運用管理の実態は、人、家族、組織、部族、種、国、世界の活動を既存のODAやJICAや国連の報告書から安寧空間構築のための目標・目的である二大戦略および二大対策の人口増加率逓減と成長率(工業化率)逓減を活動実績から評価する。その結果、地球資源との対比で二大対策の関連項目の適正値を予測し、次のサイクルの施策を世界的に反映させる。PDCAサイクルの連続で全組織の地球資源消費量が、人類滅亡の破断点を越えてスピラル的に講じた対策効果が出るかが、人類の温存に直結する。

#### 5. 緩和の逓減率: 評価項目の算定法 図3

トリプル緩和のための二大戦略と二大対策で人口増加と工業化率の逓減率を制御し、緩和の方略とするための評価項目を設定した。二大対策で人類の滅亡を先延ばしすることが期待できる。必要な地球資源を計算する方略を考察する。関連する項目は、図3に示したが、評価項目の大半は、国連、外務省、JAICA, JBIC, FASID, 大学、シクタンクなどの報告書から出される基礎データを収集する。

また、ODA評価と行政評価の相違も[4]に詳しい。評価法が異なると単純な算術計算では、所要の評価項目が算出できない。WBSCでは、これらの各種報告書から量的と質的な分析を必要とする。

管理されるデータの種類は、①各種報告書から直ちに確定する項目、②関連項目の関連を考慮しながら算出可能性を探索できる項目と③WBCSの複数サイクルの実践で経験値として得られる項目に分かれる。

例えば、人口に対する残存地球資源量の把握は、トリレンマのバランスを考慮しながら探索していく方法による。

また、危険度や幸福度は、工業的視点から、かなりの社会の成熟した地域や領域では利用できるが、想定外の範囲をどのように取り囲むかによって、計算結果が異なってくる。糸川博士の商品弾性率理論なども最終値の算出には有効な方法だろう。[7-P, 170]

現象的には、何らかの臨界点を超えて死滅にいたる領域を予め設定するのは困難である。要素還元論の思考法と包括的な視点からの思考が必要となる。[6]

自然科学的思考と社会科学的思想が融合した方式を必要とする。ビッグデータ処理や深層学習および会話分析から得られる質的データも有効な技法となる。

6. 結言 図 1, 図 4

安寧空間を保持していくのは、無駄使いをしない、

過剰な依存症を抑止する、餓死者の出ないような人口に抑え、どこへでも工業化を志向しない。人間は、考えるという道具を手にした時から生きることを悩まねばならない特性を身に着けてしまった。価値観を転換し、人類の滅亡の時期を可能な限り先延ばしする方略を提案したが、実践に持ち込むのは、本来は政治の分担だが資金援助だけの政治では実現不可能であろう。個人でも可能な事を立証したい。

引用文献・参照文献；

- [1] 沢恒雄：二大モデルによるトリレンマの艦戎(緩解)の研究,第 14 回情報科学技術フォーラム(FIT2015),4Q-6
- [2] 沢恒雄：世界日本学の提唱,第 14 回情報科学技術フォーラム (FIT2015) ,4Q-7
- [3] 沢恒雄:世界日本学モデルベースシステムによる安寧空間構築の研究,情報処理学会 MPS 研究会,2016
- [4] 山谷精志：政策評価, ミネルヴァ書房,P218
- [5] 松井孝典,地球学:長寿社会の文明論,ワック,1998
- [6] 松井孝則,地球倫理へ,岩波書店,1995
- [7] 糸川英夫,人類生存の大法則,徳間書店,1995

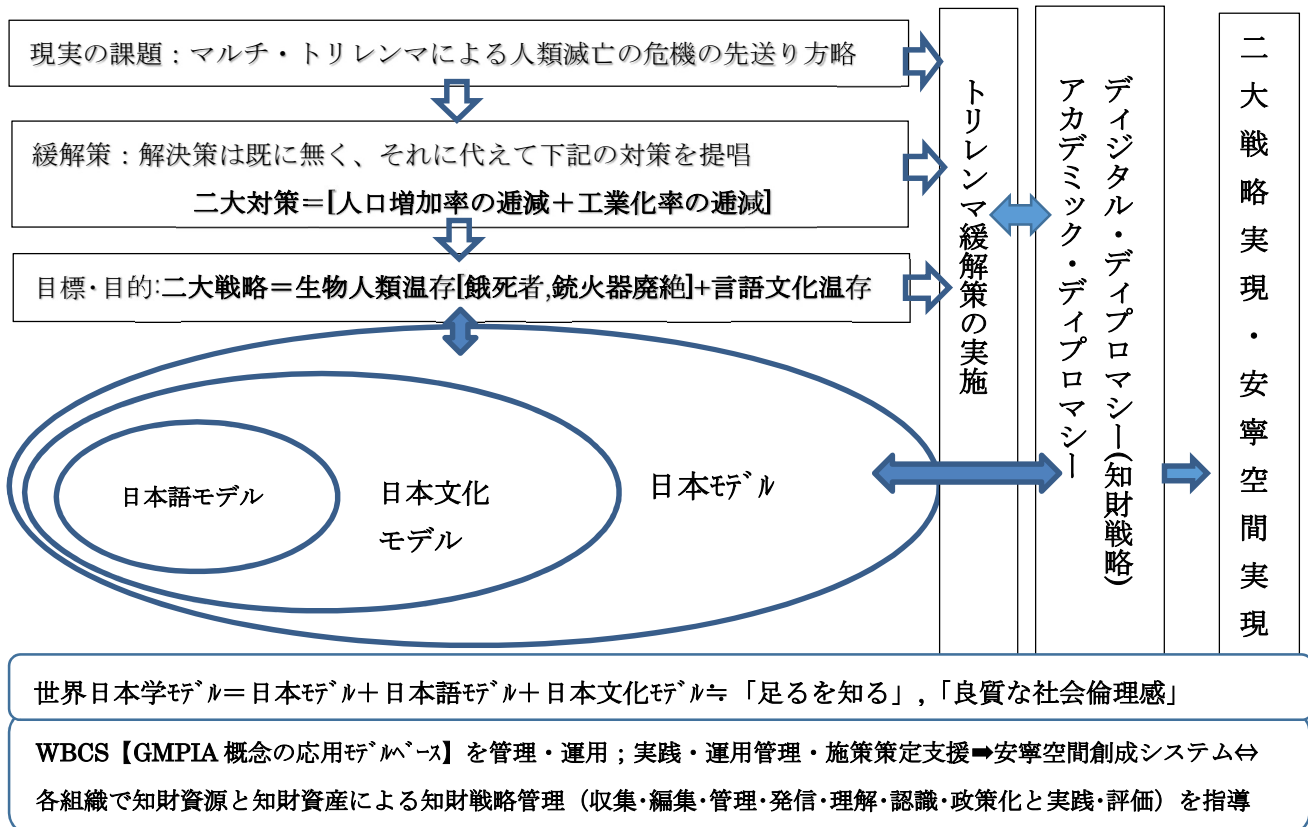


図1 世界日本学(日本・日本語・日本文化)モデルによる安寧空間創製システム概念

レベル	主要タイトル	内容； 源泉や説明事項	記事； 方法や源泉
日本文化	文化研究の知財, LOD	国立国会図書館, 総研大に累積している知財など	デジタル・ディバージョン (ITDIP と略す)
	源氏物語, 和歌集	万葉集などの超長期のロングセラー	原本, 現代語版, ITDIP
	その他, LOD	廉価版の NGO 的な日本文化の広報活動	ITDIP
日本語	汎用専門日本語教育システム	総合的な辞書体系を具備する。用語辞書, メタ辞書	経営日本語教育システムを拡張
	経営日本語教育システム	基幹モデルの応用で汎用専門教育システムへ拡張	沢恒雄が開発したシステム
	日本語, LOD	日本語は言霊であり, 言語帝国主義を排除する	ITDIP, 分類語彙表のエンバール化
日本	古代から明治初期までの歴史	日本二千六百年史: 大川周明 日本の魂, 主権, 国體や万世一系の歴史までの範囲	縄文文化から自然風土と海に育まれた文化の 既存部分とし, 広報・宣伝する。
	近現代の歴史 1	国破れてマッカーサー; 西鋭夫, フーバー大統領回想録, 極秘外交公文書の公開で事実を把握して総括	事実に基づく歴史の回復をして, GHQ 統括 による自虐史観を払拭するための歴史総括
	近現代の歴史 2, LOD	日本の魂・主権・国體を回復, 敗戦後の脱自虐史観	日米戦争は自衛, 東京裁判の違法性, ITDIP
	その他(主権・国體・魂の回復) 歴史主体に国體, 主権の総括を 行い広報・宣伝活動	国體の本義 呉 PASS 出版 日本の良質な倫理や蓄積された先人の遺産 【伝説から連綿と続く歴史・日本の魂・国體】	事実に基づく総合的な歴史と日本の回復を 10年程度かけて実践し, 後世に託すことが 最重要である。
安寧空間創成システム WBCS (GMPIA) による定期・周期的な分析評価で実績値と予測結果の根拠を提供し, 政策・施策化へ誘導・勧告を実施			

図2 安寧空間創製システム概念の世界日本学【日本・日本語・日本語】モデルベースの概要

1単位周期	Plan (Input)	Do, (Process)	Check (Output)	Action (一)
既存の組織構成 単位の実活動	人・組織・団体・種・部族・国の目標 と目的に応じた戦略・施策の実践 で資源量を確定する計画行為等	実践・活動	国連, 諸国の行政機関や, ODA, JAICA など報告書, その他白書等	各組織における次サイクルに反映さ せる。
WBCS による 安寧空間創製 成システム (GMPIA)	統合的辞書, モデルベースシステムの規範 モデル開発(最初の実践サイクルが規範 モデルとなる)。それ以降の継続的 運用が重要である。	モデルの精緻化, 欠 損情報の探索と 収集	各種報告書から WBCS の評価 項目の分析・評価を実施, 現状を 把握し残存資源量の確定, 人類 消滅危機率の予測をする。	次サイクルの実行計画に反映させ る指針を明示, 新規に獲得され た知識・知恵をモデルベースへ反映 させる。

図3 安寧空間創成システムの概要 既存のシステムとの連携[PDCA サイクルで組織活動の質・量の改善・改良・改革]

大項目	主要項目	要素とデータの種類と区分	制御項目の定義	収集・分析対象	残存資源量	幸福度	危険度
二大 戦略	生物・人類	生物 (①分類)	絶滅種の数	同左	△	○	◎
	温存戦略	人類 (①分類)	人口増加率・遞減率と傾向	同左	◎	◎	◎
	言語・文化	言語 (②分類)	消滅言語数と傾向	同左	—	○	◎
	温存戦略	文化 (③分類)	消滅の危機にある文化領域 と存続の可否や対策の纏め	同左	—	○	◎
二大 対策	人口増加率	増加率と遞減率の検証②分類	対前期サイクル比, 人口の増加率	所要資源把握	◎	◎	◎
	工業化率, 経済成長率 の遞減	GDP による成長率を仮設定 し, 運用段階で厳密な項目を 学習する。 (③分類)	対前期結果との比 GDP と新規の尺度設定 ,[7・P.170]商品弾性理論	所要資源の把握, 依存症の傾向は 商品弾性値が有 効である。	◎	◎	◎

図4 安寧空間創製システムの定義・要素と評価項目